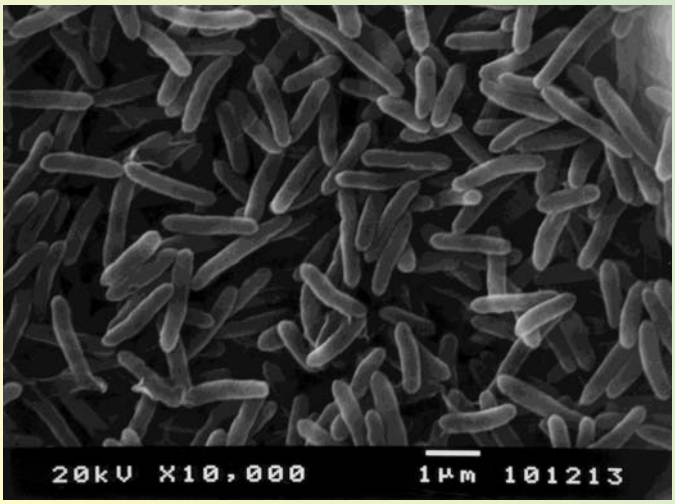
大阪市立環境科学研究所　第 108 号　平成23年 3 月

健康　環境　サイエンス

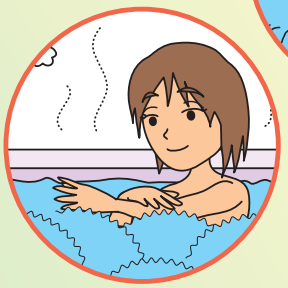
レジオネラ肺炎



レジオネラ（電子顕微鏡写真）

レジオネラ肺炎はレジオネラ属菌を吸入することにより、主に高齢者や新生児などの抵抗力の弱い人たちに発生します。数年前には温泉利用後の集団発生が起き、注目を集めました。また、ガーデニングに使う腐葉土を吸入して感染したと推測された例もあります。潜伏期間は2～10日で、50～70歳の男性に多いことが知られています。レジオネラ属菌は河川、池、沼、温泉、土壌など自然界に広く分布し、アメーバなど原虫や藻類の細胞内に寄生しています。これが人工環境水（冷却塔、循環式浴槽、温泉など）に混入し、そこで増殖し、ヒトに感染して「レジオネラ肺炎」を発症します。

大阪市内でも毎年10人前後（国内では500～900人）の患者が発生しています。感染源の特定は難しいのですが、患者に公衆浴場や温泉施設の利用歴があれば、浴槽水中のレジオネラ属菌検査を行ない安全を確認しています。現行の浴槽水の基準（100mlあたり10個未満）を満たしていれば、感染の可能性はほとんどありません。レジオネラ肺炎を予防するためには、人工環境水中の菌数の管理、すなわちレジオネラ属菌の増殖を促すバイオフィルム(生物膜：いわゆる「ぬめり」)の除去が 効果的です。また、感染の成立には菌が肺の奥深く肺胞まで侵入することが必要なので、エアロゾル（1～5μmの微小な水滴）の発生を抑えることも重要です。超音波式加湿器、気泡風呂、シャワーなどエアロゾルの発生源は特に清潔に保つことが大切です。



（微生物保健担当　小笠原 準）